

鶴岡市 地域まちづくり未来事業計画の推進

事業名	事業費						令和6年度 事業内容
	H31・R1	R2	R3	R4	R5	R6	
地域振興懇談会運営事業	135万7千円	135万円	91万3千円	135万7千円	177万7千円	88万8千円	地域振興懇談会を開催し、各地域の課題解決策や地域の活性化策について協議を進める。
地域まちづくり未来事業（鶴岡）	3,022万6千円	3,180万7千円	3,016万3千円	3,016万1千円	2,016万1千円	2,016万1千円	鶴岡地域の広域コミュニティ組織が、未来に向けて取り組むまちづくり事業を支援し、住みよい、活力あふれる地域コミュニティの構築を推進する。
地域まちづくり未来事業（藤島）	6,098万7千円	1,550万6千円	2,250万3千円	2,301万1千円	2,624万2千円	2,779万2千円	1. 未来に繋げる田園文化と多様な水田活用農業の振興 6,481千円 2. 歴史と文化、交流が彩るふじのまちづくりの推進 16,662千円 3. 暮らしやすい“藤島”を実感できる生活基盤の再構築 4,649千円
地域まちづくり未来事業（羽黒）	5,139万9千円	1,787万9千円	4,415万3千円	1,667万8千円	1,380万8千円	1,418万4千円	1. 人を惹きつけ魅力あふれる観光の推進 12,780千円 2. 地域の特徴を生かし価値を高める農業の推進 732千円 3. 活力ある地域づくりを担う地域コミュニティの推進 672千円
地域まちづくり未来事業（櫛引）	2,191万4千円	1,291万9千円	1,512万8千円	1,812万5千円	1,292万4千円	2,018万7千円	1. フルーツの里づくりの推進と、地域資源の観光連携による魅力度の向上 6,999千円 2. 黒川能など貴重な歴史文化の継承と活用推進 4,002千円 3. コミュニティの活性化と明るく健康で暮らしやすい地域づくりの推進 9,186千円
地域まちづくり未来事業（朝日）	5,689万9千円	2,123万5千円	2,553万2千円	2,190万6千円	1,452万4千円	1,927万8千円	1. 中山間地域における定住環境の支援 16,098千円 2. 森林資源、自然環境などを活用し、中山間地に特化した農林業の振興 1,950千円 3. 自然、文化、風土など、地域資源を活用した観光の振興 1,230千円
地域まちづくり未来事業（温海）	4,095万1千円	3,005万2千円	2,129万8千円	3,153万7千円	2,804万5千円	2,013万8千円	1. あつみ温泉と道の駅を拠点とした地域振興 540千円 2. 自然・歴史・文化を生かした交流人口、関係人口の拡大 14,883千円 3. 地域特性を生かした農林水産業の振興 2,616千円 4. 海・山・自然豊かに暮らし続けられる環境整備 2,099千円
合計	2億6,373万3千円	1億3,074万8千円	1億5,969万円	1億4,232万7千円	1億1,748万1千円	1億2,262万8千円	

民報
藤島

2024年 3月3日

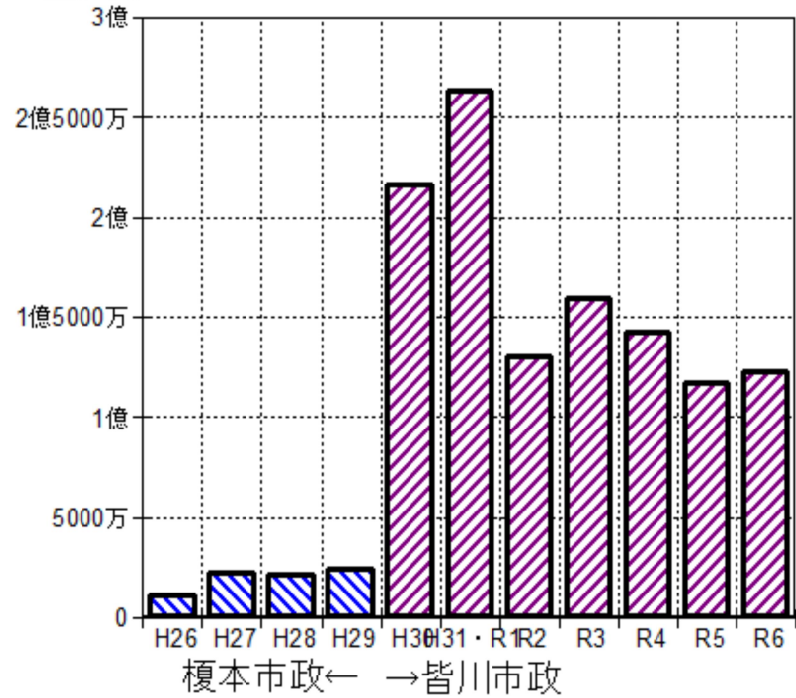
第1437号

編集発行
日本共産党藤島支部

生活相談所
加藤 鉦一（宝徳）
Tel0235-64-3941
携帯090-8929-4221
HPは「藤島 加藤 鉦一」と検索で入力。

発行経費にカンパをお願いします。民報配布者にご連絡下さい
(月200円程度)
2月 30人 40,470円
1月 36人 32,030円

金額（円） 鶴岡市の地域振興予算の推移



**地域まちづくり未来事業
令和6年度新規は**

鶴岡市の地域振興予算「地域まちづくり未来事業」は、それぞれの地域の特性や資源を活かした魅力ある地域づくりと交流促進、地域産業の振興などを進めます。

令和6年度新規事業

- ・ 藤島地域観光拠点魅力アップ事業178万4千円
- ・ 藤島歴史公園案内表示板整備事業140万円
- ・ 史跡松ヶ岡青空マルシェ支援事業60万円
- ・ 桜ヶ丘景観魅力発信事業5万円
- ・ 月山高原「黄金色の麦畑」創出事業73万2千円
- ・ 羽黒地域のおしごとみつけた事業28万8千円
- ・ 羽黒地域ふらっといっぽ事業38万4千円
- ・ くしびきフルーツ振興プロジェクト事業は予算を増額（367万9千円から578万2千円）

千円に、

- ・ 鶴岡市南部エリア観光周遊促進事業104万3千円
- ・ 櫛引地域歴史文化施設ガイダンス整備事業70万円
- ・ くしびき若者未来創造事業77万2千円
- ・ 櫛引ゆかりの偉人展示会開催事業162万2千円
- ・ 朝日地域大鳥地区移動支援モデル事業31万円
- ・ 朝日地域安全・安心な除排雪支援事業15万円
- ・ 朝日地域フレイル予防事業200万円
- ・ 温海地域家族まるごと移住体験事業619万円などがあります。

その他未来基金を充当する経費（全体経費）として、

- ・ 事業推進員任用経費1574万3千円
- ・ 地域庁舎管内施設の小規模修繕事業（1庁舎あたり1000万円）5000万円です。

J A 庄内たがわ臨時総代会 北部・南部エリアに再編



あいさつする J A 庄内たがわ
海藤喜久男組合長

は、最終的な再編の考え方は、北部エリアと南部エリアの2つのエリアに分けた施設再編を行う。

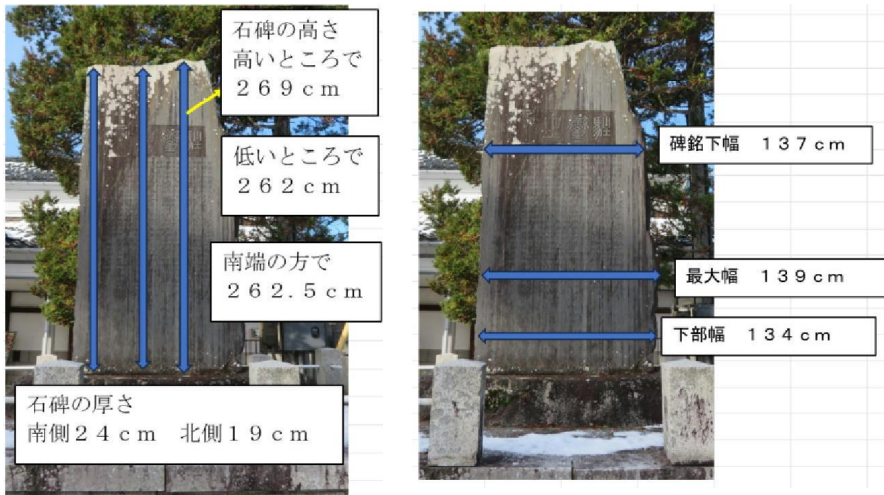
北部エリアは、新余目・立川・藤島・三川、

J A 庄内たがわ（海藤喜久男組合長）の臨時総代会が2月20日、いろいろ火の里なの花ホール（三川町）で開かれました。

平成元年に建設され、35年が経過した新余目支所は、温泉とプールがあり、劣化が進み、今年度は配管が破裂して、3階以上が使用できなくなりました。

一方で、農協の財務も厳しさが増していることから、本支所施設の再編の検討を進め、臨時総代会に提案となりました。

第1号議案の「本支所施設の再編について」



から、約16人が減員の見込み。

南部支所（仮称）は、令和7年4月に櫛引支所と朝日支所を統合するが、朝日出張所（営農課・管理金融課）を残し、南部で8人の減員の見込み。

第2号議案の「固定資産の取得について」は、庄内町廻館の北部支所（仮称）の新設と用地取得で、概算事業費は建物2億7088万円、用地1300万円。

第3号議案の「固定資産の処分について」は、三川麦センター施設の解体処分、概算事業費5174万円。

いづれも実出席総代の反対はなく（書面反対6、3号議案7）、可決承認されました。

東田川史跡物語 『駐鑾之碑』規模調査の現段階①

青山 崇

『駐鑾之碑』の「規模と特色」について、23年11月26日付に次のように書いた。

「基壇はほぼ4 m四方、石碑の高さは4・

5 mほど。周りを石組で締め、同時に石柱を金具で繋ぎ、堂々たるものである」と。

その後、かつて旧藤島町在住の頃、町内会での飲み友だちであった北山石材店と、東田川文化記念館職員の渡部隆志両君に、石質と測量図を依頼した。

予想以上に早く結果が送付されてきた。まず、石碑本体は、高さ右端最長269 cm、中262 cm、左端262・5 cm、巾は最下部134 cm、最大139



株価が上がっても

株価が、バブル期後初めてバブル期の最高値を突破したと、大はしゃぎをしていたつ。東京証券取引所に上場する約2000銘柄の内、トヨタ自動車やN T Tなど225銘柄の株価を平均したものを日経平均株価と言、これが34年ぶりに最高の値になったんだと。

▲バブルの時は、俺にもそれなりに良い影響があったはずだが、今回は暮らしが良くなるなんてことはあるまい。どうかの誰か、つまり、良い処の株を持っていた金持ちに、金がお溜まったって事だろう。言え、爪の間を汚すことが無い、額に汗をしない人達がニタニタしていたんだろうと想像するんだが、こんな下品は良くないか？

cm、篆額下幅137 cm、厚さ左端24 cm、右端19 cmである。 量ほぼ縦180 cm、横90 cmで、162 mとされている。 当本体は、大きさは量の1・5倍の高さ、幅もほぼ1・5倍であるから、均衡がとれた大きさと思われる。 石は仙台石と称され、松島産砂岩である。柔らかく加工しやすいので刻字によい石質で、後世まで保存されるという。

基金など公的資金を投入する等、株価を上げる政策をしてきた事。円安も影響していたとか。証券業界では、まだ上がって、4万円超えもあるだろうと予想しているようだ。

▲気を付けたいのは、どこかに良い話がある、と、必ずと言っていい程ある、サギからの誘惑。政府は、庶民の貯金を動かしたくって、個人で出来る投資の道を作ったんだ。ニーサがそれだが、投資話は、農協や近くの銀行からの話は聞いても、電話での誘いには絶対乗らない事だ。それこそ、小金持ちのお年寄りが、老後にと握っていた金、がそっくり無くなるばかりか、立ち上がれない程の金を持っていたか、だから。 俺は携帯を操作しないから、携帯を持って金融機関で暗証番号・って事はない。（石川）